

第105号

平成23年  
(2011年)  
4月1日(金)

季刊 1部50円 年200円  
(送料税込)

発行所  
財団法人 静岡県予防医学協会

(本部) 〒421-1292 静岡市葵区建徳1-3-43  
(054) 278-7716 F A X (054) 278-7717  
http://www.shsa.net  
(東部事務所) 〒410-0007 沼津市西沢田729-11 (055) 921-1934  
(西部検査所) 〒435-0006 浜松市東区下石田町951 (053) 422-7800  
(総合健診センター) 〒426-8638 藤枝市善左衛門2-11-5 (054) 636-6460  
発行責任者 石黒 満 印刷 松本印刷株式会社

# けんこう静岡

「けんこう静岡」は、当協会ホームページから見るができます。

http://www.shsa.net または静岡県予防医学協会検索ください。

私は、昭和12年の京都生まれ。医者之家に生まれたのではなかったのですが、小学校6年で、両親を戦争と病気で失ったとき、医者になって母親を奪った肺炎を退治してみせると、心に決めていました。

昭和37年に京都大学医学部を卒業したあと、神奈川県座間にある米軍陸軍病院でのインターンを終えた後、進路について親しい先輩に相談したところ、まだ医療が確立していない分野は心臓外科であり、とくに小児の心臓外科は、まだまだ黎明期にも入っていないので、つらいけど、やり甲斐はきつとあるよと言われ、すぐ決心しました。確かに、小児心臓外科医として働いた静岡県立こども病院での28年間は、忙しかったのですが、素晴らしい生きがいを与えてくれ、今の自分を支えてくれていますので、その先輩に感謝しています。

インターンの間に米留学の資格である Educational Commission for Foreign Medical Graduates に合格し、1969年から4年間サンフランシスコにあるスタンフォード大学の系列病院で心臓外科の臨床修行をしました。この4年間は、心臓手術の厳しき、恐ろしい、勉強の必要性を教えてください、そして喜びを与え

てくれました。緊急手術が続いてもへこたれなかったのだったアイアンマンというあだ名に踊らされて、チーフ・フェローの役目も引き受けてしまい、体力的にも精神的にも過酷な仕事を続けました。そして、手術で感染したB型肝炎で仕事を休んだ1ヶ月は天からの贈り物に思えました。けじめがはっきりしていることで、仕事を離れるとカリフォルニアの風土は別天地、住んでいるほがらかで暖かい友人たちとの交流は、日本では味わえない経験であり、心のゆとり、健康であることの素晴らしさを十分に味わわせてくれました。後半2年間の結婚生活、育児も楽しい思い出です。父親になったとき、高揚した気分のまま、長女にメアリーというミドルネームをつけてしまいました。のちに日本の職場でメアリーと呼ばれて娘を面映い気持ちにさせることになるとは思いもしていませんでした。このおつちよこちゃん性格は、今も直らないようです。

静岡県立こども病院での心臓外科医時代

昭和52年、日本で6番目となる小児専門病院である静岡県立こども病院の開院と同時に、心臓血管外科チームに加わりました。4年目にリーダーの村岡隆介先生が福井医科大学の教授になられたあとリーダーの役目を引き継ぎましたが、開院当初は、重症な新生児の救命は極めて困難な時代でした。京都大学時代には経験したことのない重症の患者さんの手術が多く、毎日が勉強、手術の工夫、緊張と激務の連続でした。

昭和57年(1982年)に、聖隷浜松病院、新生児科の柴田 隆先生が発明された新生児搬送専用のドクター・カーは、専門医師看護師が乗り、呼吸器、モニターが完備した、動くICUともいえるべきもので、同様の救急車3台が県内で稼働した昭和57年以降、県内全域から多くの超重症新生児がこども病院に搬送されるようになりました。当時、このような新生児搬送システムは静岡県以外にはなく、消防隊の救急車で新生児搬送は危険ということで、手術が出来る医療機関に到達できなかったという事情がありました。生後3日以内に緊急手術を余儀なくされた79人(生後0日15、1日22、2日23、3日19)の手術経験について学会で報告した際には、他の施設からの同様の報告がなく、静岡県の新生児搬送システムは高く評価されました。

国内外で最初の成功例として数々の新聞報道がされるたびに、術者一人の功績ではなく、医師、看護師、技師

さんなど、チーム全体の努力が認められたということ、皆で喜びを分かち合いました。同じ病気を持ったご家族への福音にもなった、と思います。術式の工夫がうまくいったときの喜びは、外科医の冥利につきる、と思いがたい。私どもの苦勞は、退院時の子供さん、御両親の笑顔でいっぺんに報われたものです。診断と手術適応を決める小児循環器科と手術をする心臓外科とは夫婦みたいな関係でしたが、循環器科は「頭で考えるのは自分たち、外科はこちらの指示通り、ただ手先を使って手術すればよい」と思っていたのかもしれない。あるとき、手術中に循環器のドクターに相談することがあり、手術室に来てもらいましたが、小さな心臓の中を照らすために心臓外科医が小型のヘッドライトを頭につけているのを見て「あ、外科も頭を使うんだ」と口走り、ちょっと不穏な空気が流れたことがありました。しかし、お互いの刺激のしあいが切磋琢磨を生んだのだと思います。世間の夫婦のご他聞にもれず、お互い自分のほうが上と考えていたのでしょうか。勿論、確固たる信頼関係に結ばれていた仲間同士でした。

心臓を開いて手術をする開心術では、心臓の中の異常を修復するために心臓の動きを止める必要がありますが、止めている間、心臓の筋肉が酸素不足で障害を起こさないように保護する技術の進歩が手術成功の重要な要因の一つでした。勿論、外科医の腕を磨くこと、世界中の文献を読み、術式の工夫、手術の段取りを考えることにより重要です。ある老医師が若手の医師に言った「君たちは、自分の命を、勉強しない医師にまかせることが出来るか、医師になることは、身震いするほど恐ろしいことだ」という言葉は、強く心に残っています。

0歳から82歳への転換

平成17年3月静岡県立こども病院を、名誉院長として退職した翌日から、焼津市にある療養病棟の駿河西病院に勤務することになりました。駿河西病院が属している綾和会という医療法人には、焼津ケアセンター、掛川北病院、浜松南病院が含まれ、ベッドの総数は680、今は、綾和会の理事長と駿河西病院の院長をやっています。駿河西病院は200床の病院で、50人の病棟の担当をすることになりましたが、平均82歳、100歳以上の方もいらつしやるという人生の大先輩に囲まれてのスタートでした。先天性心疾患の手術が専門、とくに新生児の手術を多くてくれた私にとって、まさに、0歳から82歳への転換でした。第二の人生を歩むコツは、心臓手術のことを忘れること、という先輩からの助言を守って、糖尿病、高血圧、認知症、脳卒中などの教科書を読みあさり、基本的な知識を身につけましたが、元来、文献あさりを楽しめる性格だったので、苦になりませんでした。

しかし、医療の現場のことは、文献からだけでは分からないものです。経管栄養の人たちが50人中20人、気管切開の人たちが常に5、7人、そして、最も戸惑ったのが、

やはり認知症の方が多いことでした。人がほけるのは、人生の苦しみ、悩みから解放されるという良い面もあるのだ、という話を聞いたことがありますが、その静かなイメージと異なり、現場で暴力行為、暴言に接してみると、若いスタッフは耐えにくいのではと考えるようになります。「この方々は、日本の敗戦後、国の復活と家族を守るために必死の努力した人たちであり、常に感謝の気持ちと尊敬の念を持って接しなさい」とスタッフには常日頃話しているのですが、スタッフも感情を持つ人間です。つらいことでしょうか。「親孝行 したいときには、親はなし」の私は、肉親の介護の経験がないので、患者さんを自分の肉親と思って世話する、という信念で仕事をしている若い人たちは、本当に尊敬できます。

介護させていただいている患者さんから教えられたこと

あるとき会社のトップで活躍されていた60代の男のかが脳梗塞後の片麻痺で入院された日に、「これまではバリバリ仕事をしていらつしやうたのですね」と話しかけたところ、大きな声で泣き出し、とても悔しそうなお顔をされました。言わなかったらよかったと思いましたが、その後、雑誌で「紙パンツ 名誉も地位も吸い取られ」という川柳を見たときは、愕然としました。また、通所でリハビリをしていらつしやる片麻痺の女性から「先生、こんなになつたらおしまいよ、先生も気を付けてね」と言われ、自分の健康を保つことの大切さを考え直さなければならぬ、と思いました。

自分の健康について

これまでの人生の中で、自分の身体の健康について、どのように考え、気をつけてきたのか、考えてみました。健康なとき、仕事に夢中になっているときは、身体のこととは考えないものです。手術したことも心臓病の殆どは先天性(生まれつき)であったため、病気に対する「予防」という意識が生まれなかったように思います。

静岡県立こども病院での心臓手術の毎日、とても過酷であり、長時間の手術の日には昼食がしばしば夕刻になるので、朝からピクニックなどを食べることもありました。手術中に血糖値が下がってとっさの判断ミスによる危険を回避するためには、健康的ではない、と分かっているが無茶な食生活を続けました。トイレ休憩などありませんので、朝の水分はコップ1杯半でした。おかげでコレステロールが高めとなり、院長になって手術から離れるようになってからは、魚と野菜中心とし、血圧が少し高くなったので、塩分を控えるために味噌汁をやめて20年以上になります。でも「塩分は控えめ 艶間はやや多目」(雑誌で見ました)とは、いきませんでしたね。まあ、自分が風邪を熱を出しても、予定の手術を中止するわけにいかず、体力ぎりぎりまで仕事をしていました。

こども病院で心臓外科医として院長としてがむしゃらに働いていたときは家庭を全く顧みることがなく、有給休暇をとったときは28年間で兄が亡くなったときの1日だけ(それを見てだったのか、息子は医師への道を選ばず



## 『0歳から82歳への転換』

医療法人社団綾和会理事長・駿河西病院院長  
静岡県立こども病院名誉院長  
静岡県予防医学協会会長  
横田 通夫

(筆者は、三月十五日開催の理事会で当協会会長に選任され、就任致しました。)

年一回は健康チェックを!

健康はあなたの財産です  
すこやかな明日のために

# 人間ドック 脳ドック

総合健診センター  
ヘルスポート  
〒426-8638 藤枝市善左衛門2-11-5  
TEL 054-636-6460  
FAX 054-636-6465  
0120-39-6460